

カフェをイメージした内装が印象的な新築オフィス。以前の約2倍の広さを確保し、1階に会議室と倉庫、2階に総務部、社長室、掘りごたつ式の休憩室、3階に技術部というレイアウトだ。「電球が垂れ下がった暗いフロアで図面を引くという従来からのイメージを転換し、設計事務所らしくない事務所を作りたいと思ったんです(石原社長)。人生の中で費やす時間が長い「仕事」における空間だからこそ、そのコンセプトにはこだわりたいという。ワンフロアの技術部には周りから見える場所で打ち合わせやウェブ会議ができる「ルームインルーム」、個室風の「集中ブース」を設

置。一方で会議室内には卓球台を導入し、昼休みなどには社員が活発に体を動かしている。阿蘇の山々や金峰山などが眺望できる広々とした屋上では、バーベキューを開いたり、ソファアールでお茶したり、ハンモックの上でくつろぎながら日光浴をしたり、クリスマスシーズンにはイルミネーションを点灯させるなど、社員がリフレッシュできる演出を施している。「社員のモチベーションアップを通じた生産効率の向上を目指し、一人一人が仕事の状況に応じてフレキシブルに行動できる働きやすいオフィス空間に仕上がったと思います」。石原社長は笑顔で語る。

「らしくない事務所を作りたい」。オフィスのコンセプトが存分にデザインされた(株)新興測量設計の新社屋では仕事の状況に合わせて社員がフレキシブルに対応でき、一方で休憩時には十分リフレッシュできるオン・オフを大切にする空間を追求している。ワンチームによる魅力ある会社づくりへ挑戦は続く。

(株)新興測量設計

1976(昭和51)年創業、社員数25人。官公庁を営業先に測量・設計業務を手掛けている。本社事務所(熊本市東区上南部3丁目)が手狭になったことや今後の社員増員に備え、現地建て替えを実施。2021年5月末に完成し、同6月1日から新事務所業務を始めた。関連会社にシステム開発、不動産業の(株)AMCシビルテックがある。

Work hard, Play hard

オン・オフを大切にする空間追求

[(株)新興測量設計]



ワンフロアの3階技術部。その一画では周りから見える「ルームインルーム」で社員による打ち合わせが進む





昼休みに1階会議室の卓球台で体を動かす同社社員。日頃の練習の成果を発揮し、室内では軽快なラリーが続く

成長ビジョンをオフィス空間へ反映

中小企業は社員間の人間関係も大事な要素。「コロナ禍で希薄になりがちな社員間のコミュニケーションを円滑にする仕掛けとして、卓球のような社内レクリエーションは職場に活気が生まれます。普段は見えないその人の意外な一面が発見できることもありますね。新オフィスの運用開始から半年が経過し、業務面での効果や社員の反応は「オン・オフの切り替えを大切にすることで、生産性や集中力は確実にアップしていると思います。社員にも好評ですし、何より仕事する姿が生き生きとしてきましたね」と手応えを感じる。

最後に「働く」ということの価値観について。「家族や自分が幸せになるために働いているんだと思います。『明朗』という言葉の通り、明るく喜びを感じながら働いてもらえればうれしいですし、仕事を通じて社員が幸せを感じてもらうためのお手伝い



「会社の成長ビジョンをオフィス空間に反映し、魅力ある会社づくりを目指していきます」と笑顔を見せる石原社長

をすることも社長としての役割ではないでしょうか。熊本県SDGs第1期登録企業として、環境配慮や育休取得、女性管理職の積極登用などを推進し、若者が働きたいと思える会社づくりに注力する同社。「我々のような中小企業は常にワンチームで取り組む必要があります。社員により多くのものを分配していくには現状維持ではなく、チャレンジ精神を持って会社の将来像を全社員で描きながら常に成長し続ける企業でありたいと思います。そういったビジョンをオフィス空間にも反映し、さらなる魅力的な会社づくりを目指していきます」。

